

## 年 表

年月日	出 来 事
昭22-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚庭球協会として発足し、神奈川県軟式庭球連盟に加盟。 平塚市及び中郡に所在する庭球団体を総括する地域協会となる。</li> <li>・創立当初の協会加盟団体は、中学・高校を含めて15団体で685名、社会人は5団体で178名であった。</li> </ul>
昭22-9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚市体育協会が設立され、加盟協会となる。</li> </ul>
昭24-6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営大久保公園コート（2面）完成。</li> </ul>
～昭27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営大久保公園コート閉鎖。</li> </ul>
昭30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営松風庭球場（11面）完成。</li> </ul>
昭38-10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚市体育協会に新規登録の硬式テニス協会が認められることにより、平塚軟式庭球協会と呼ぶこととなる。</li> </ul>
昭31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営松風庭球場にて、第7回関東選手権大会実施。</li> </ul>
昭32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営松風庭球場にて、全国実業団大会実施。</li> </ul>
～昭43	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営松風庭球場閉鎖。</li> </ul>
昭45-8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚市営軟式庭球場（田村コート）10面完成。</li> </ul>
昭46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校は高体連扱いとなり、社会人団体のみとなる。</li> </ul>
昭49	<ul style="list-style-type: none"> <li>・13回にわたり、平塚インドア全日本選抜軟式庭球大会を湘南クラブ</li> </ul>
～昭61	<ul style="list-style-type: none"> <li>と共催で見附台体育館において実施。</li> </ul>
昭63-11-27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚軟式庭球協会 創立40周年誌「四十年誌」発行。</li> </ul>
平04-4-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚市ソフトテニス協会となる。</li> </ul>
平17-4-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会加盟団体 10団体、210名。</li> </ul>
平18-10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平塚市ソフトテニス協会「六十周年記念誌」発行。</li> </ul>

## 地域功労者受賞者（県連表彰）

年 度	表 彰 者	団 体 名
昭和 42 年	土 屋 好 郎	白 陵 ク ラ ブ
昭和 43 年	柏 木 雅 昭	白 陵 ク ラ ブ
昭和 44 年	高 倉 伸 治	平 塚 市 役 所
昭和 45 年	古 橋 次 郎	
昭和 46 年	山 口 保 男	白 陵 ク ラ ブ
昭和 47 年	白 井 出	白 陵 ク ラ ブ
昭和 48 年	笠 井 一 栄	湘 南 ク ラ ブ
昭和 49 年	杉 山 泰 生	白 陵 ク ラ ブ
昭和 50 年	笠 井 達 夫	湘 南 ク ラ ブ
昭和 51 年	土 屋 眞 二	白 陵 ク ラ ブ
昭和 52 年	秋 山 昌 治	湘 南 ク ラ ブ
昭和 53 年	相 原 孝 博	
昭和 54 年	清 水 文 夫	な で し こ ク ラ ブ
昭和 55 年	富 樫 勇 二	日 産 車 体
昭和 56 年	熊 澤 哲 弘	白 陵 ク ラ ブ
昭和 57 年	佐 藤	
昭和 58 年	内 海 久 夫	達 上 ク ラ ブ
昭和 59 年	小 川 昇 二	白 陵 ク ラ ブ
昭和 60 年	小 澤 実	湘 南 ク ラ ブ
昭和 61 年	広 井 宣 昭	湘 南 ク ラ ブ
昭和 62 年	野 田 寛	湘 南 ク ラ ブ
昭和 63 年	岩 谷 幸 雄	湘 南 ク ラ ブ
平成 元 年	木 本 正 之	湘 南 ク ラ ブ
平成 2 年	大 野 忠	小 松 製 作 所
平成 3 年	小 清 水 久	日 本 た ば こ
平成 4 年	君 塚 亮 一	湘 南 ク ラ ブ
平成 5 年	佐 藤 尚	白 陵 ク ラ ブ
平成 6 年	関 野 雄 作	小 松 製 作 所
平成 7 年	土 屋 修	白 陵 ク ラ ブ
平成 9 年	清 水 光 夫	な で し こ ク ラ ブ
平成 11 年	斉 藤 道 夫	平 塚 市 役 所
平成 12 年	小 林 典 明	東 電 神 奈 川
平成 13 年	内 藤 純 一	つ く も ク ラ ブ
平成 14 年	高 橋 良 之	な で し こ ク ラ ブ
平成 15 年	中 村 俊 夫	二 宮 ク ラ ブ
平成 16 年	高 木 信 幸	二 宮 ク ラ ブ
平成 17 年	太 田 正 道	土 曜 ク ラ ブ

## 松風コート時代の思い出



平塚市ソフトテニス協会

参 与 高 橋 哲

私がソフトテニスを始めた昭和29年、大久保公園のコートと平塚農業高校のコートで市内の試合が行われていたことを記憶しています。その頃、高校一年生だったせいか、他校の三年生の体格の良さ、プレーの力強さに脅威を感じたものであります。

学校への通学は下駄を履いての通学でした。したがって、学校での練習は素足でありまして、雨上がりの時の練習は滑ってしまうし、コートがグシャグシャになって大変でした。現在もそうですが、練習は整理から始まり、コート整理で終わります。ひとつ違うのはライン引きです。コートのラインは石灰を水で溶いて、刷毛でラインを引きました。これは本当に難儀な作業でした。このような環境でテニスを始めたので皆で相談し、練習でもテニスシューズを用意して使用したのを思い出します。さらに、テニスをするにあたってのマナーやルールについては、先輩やそして協会の人達から強制的でなく、ごく自然な形で身に付けさせて頂いたことに、今あらためて感謝している次第です。

昭和30年になると、協会の働きかけにより、市営の松風庭球場がほぼ完成し、協会の事業内容も増加し、競技人口も多くなり、競技力も向上し、平塚ソフトテニス界の最盛期を迎えることとなります。特に先輩たちがテニスを好きにさせてくれました。試合終了後、所属クラブに関係なく気軽に声をかけて頂き、練習の相手をしてくれた事です。テニスコートに出かけるのが楽しみでした。皆さん本当にテニスの好きな人達ばかりだったのでしょ。今の心境は若い時代に戻りたいという気持ちで一杯です。

最後になりますが、故藤本市郎氏、故鳥海秀次氏には、長年にわたり、若者達の相手をして頂き、細々と試合のかけ引きや、基本をご指導頂きました。さらに故笠井榮氏には、松風庭球場の管理、親しみやすい、使いやすいテニスコートとして我々愛好者に提供して下さった事に深く感謝をしご冥福をお祈り申し上げます。



市営松風庭球場（風景）

## ソフトテニスと私



平塚市ソフトテニス協会

参 与 柏 木 雅 昭

平塚高校在学中、昭和32年に全国実業団大会の競技補助員として参加できたことがテニス人生の中で最初の貴重な経験になりました。昭和34年卒業と同時に先輩方が作った白陵クラブ（昨年50周年）に入会し以来、ソフトテニスに熱中しました。白陵クラブ理事長の時、笠井達夫君がこれから広く人材を集めソフトテニスを普及させたいので新しいクラブを創りたいとの意向を聞き、私も大賛成しましたが先輩の賛成を得られず白陵を去って湘南クラブを創立し、大勢のクラブ員を集め活躍されております。

我が白陵クラブも県団体戦3連覇を達成し、若い選手達が大活躍をしたのもこの頃であります。昭和48年皆様の後押しがあり、協会の理事長に推薦されました。これまで協会は創設者の皆様方、平塚クラブの鳥海秀次、藤本市郎、笠井栄、磯村名男、パイロットの南條斗志夫、横浜ゴムの大橋豊三各氏が運営、実務をされ着々と実績を築かれていました。代わって若い我々ができるかどうか不安でしたが、幸い笠井一栄君、杉山泰生君らの協力、白陵クラブ他多数の皆様方の応援があり、又住居も平塚に移して引き受けました。その後協会も25周年を迎え記念大会の開催、前出の方々の功労を讃え表彰させていただきました。特に鳥海秀次氏は詳細な試合記録を保存されており、次の40周年記念誌にはそれを載せさせていただき、当協会所属の選手の活躍を内外に披露しました。協会も若いメンバーで始動しましたが、大会競技は専門の部署で皆様に参画してもらうべく競技委員会を設け、大会要項の細部、ドローの作成、大会当日の運営をしてきました。この制度は現在も続いております。協会理事長と同時に県軟式庭球連盟の副理事長を引き受け当時の名物理事長の河野太郎氏（日本スポーツマンクラブ）他副理事長4名（橘川、上村、鈴木、石井各氏）と県連盟の運営をさせていただきました。昭和53年～63年は仕事の都合で他県にいました。その後帰ってきて協会の参与、県連盟の顧問に推薦して頂きました。これからも微力ですがソフトテニス発展の為に頑張ります。

## 出 会 い



平塚市ソフトテニス協会

参 与 相 原 孝 博

(軟式庭球との出会い)

春日野中学校中庭のテニスコート2面に溢れんばかりの男女部員が一生懸命、楽しそうに練習に励んでいました。すぐ入部し、その一員になれた喜びがありましたが、今軟式庭球部に入部した理由は思い出せません。それはさておき、すぐ親にねだり買ってもらったラケットは、フレームの板が7層ある木製で、メーカーは“森田”と記憶しています。親に感謝し、勉強より練習に励んだものです。

中2の時、厳しさと親身で温かさのある松本先生の指導を受け、私はさらにテニスにのめりこみました。ある時職員室に呼ばれ、「どうだ、自分でガットを張らないか」と、張り方を教えてもらいました。今日まで自分で張れるのも、先生のお陰です。また、他中学校の友達も増えてきたある時、大磯中の友達の誘いを受け自転車で大磯中学校まで出かけ、練習に参加させてもらいました。この時高校から高校教師になった後までお付き合いさせていただくことになった、パワフルなテニスと笑顔のある磯田先生と出会いました。

(高校時代の出会い)

高校に入学した年、初の合宿がありました。諸先輩から厳しい指導を受けましたが、その中で特に印象に残ったのは、体にハンディがあるにもかかわらず、ハンディを感じさせない技術と情熱を持った福島先輩でした。私にとってテニス以外でも大きな影響を与えてくださった方でした。また、昭和34年4月当時の皇太子殿下(現天皇陛下)のご成婚があり、その影響からか入部希望者が殺到し、コート(男女各1面)や松林の中での練習など苦労した日々でした。高校時代の県大会は地域予選がなく、約450組が今では懐かしい松風コートで行われました。

(平塚庭球協会との出会い) —こゆるぎクラブ—

大磯高校OB会として「こゆるぎクラブ」がありましたが、活動が停滞していたため、当時の会長であった福島様の了解の上、新たな「こゆるぎクラブ」を立ち上げ、

平塚庭球協会に加盟いたしました。これより協会と係わることになりました。

一方大学3年の時、私が教師を目指す契機となったのが、地元神奈川スポーツの白砂社長から「女子校（厚木東高校）のコーチをしてくれないか」との話があったことです。この話を引き受けることになり、その年の10月学校を訪問し、顧問の鈴木先生と面会し指導方針を伺って指導に入りました。先生は子どもに厳しかったが、一人ひとりの子どもの特徴をよく把握していたので子ども達は全幅の信頼を寄せていた。コーチの私に対し全面的に信頼してくれたので、何としても関東・インターハイに出場させるため練習に励んだものでした。目的達成のため、翌年地元厚木庭球協会は勿論、平塚庭球協会にも加盟した。加盟した理由は、当時笠井達夫氏がコーチしていた「高浜高校」の選手に勝つことにあった。当時1年生がよく努力し除々に学校全体として技術・精神力も向上し、結果として3年次に関東・インターハイ出場を果たすことができた。

教師の魅力を語り、魅力と決断力、思慮深い鈴木武志先生は終生私の師であり、その師を慕いかつ目標に、私は教師を目指したのである。

（高校教師時代の出会い）

こゆるぎクラブとして協会に加盟した関係から、協会を手伝うことになりました。協会の会合は、平塚スポーツ2階の部屋でした。そこで協会役員の藤本、鳥海様に初めてお会いすることになった。お二人共に激論するなどテニスに対する情熱は大変なものでした。また、若造の私にも優しい言葉をかけていただくなど面倒見の良い方々でした。独特のカットサーブの藤本さん、味とうまさのある鳥海さん大変記憶に残る方々でした。

高体連軟式庭球部北相地区専門委員となった教師の時、当時秦野高校の顧問であった宮田先生に出会いました。秦野高校には、宮田先生の的確な指導を受け活躍していた内藤・比企・福田・向山他がいました。彼らは素晴らしい戦歴とともに、言葉使いなど人としても立派であった。

（今後のテニス）

私が今日まで過ごすことができ、かつ細々ながらテニスを楽しむことができるのも、その時出会った方々から様々な指導や助言があったからと深く感謝する日々です。テニスに対する愛情と情熱はまだまだ薄れていません。今後協会のために尽くしたいと思っています。

最後に、平塚市ソフトテニス協会60周年をお祝いし、この歴史ある節目に出会えた喜びをかみ締めつつ貴協会の益々のご発展をご祝念申し上げます。

## 昔 の こ と



平塚市ソフトテニス協会

副会長 笠井 栄

ソフトテニスを始めて53年になります。きっかけは、父が大久保公園コートに練習に行くのに連れて行かれたのが始まりで、以来父のラケットをもらい一緒に練習し、中学では市地区大会3位、選手権大会2位になりました。またコートは自分達で掘り起こし、ローラーをかけラインは石灰を溶かし真っ直ぐに引けて一人前と言われました。高校では1年の時、市民大会3位、県定通大会優勝、県初のインドア大会（見付台体育館）では第4シードで5位に、一般では平商OBで、昭和35年に松風クラブを結成し協会登録しました。昭和42年に（故）笠井栄、笠井達夫と湘南クラブを造り、関東大会に笠井達夫選手と成年代表、木本正之選手と壮年代表、協会40周年記念の年に、県総体で理事長、監督、壮年選手の3役で参加し、優勝出来た事が思い出として残っています。

一方役員としては、昭和42年26才の時理事になり、昭和46年に協会創設の長老達から若手に引き継がれ、高橋、柏木理事長から昭和54年理事長に就任しました。笠井達夫、土屋副理事長と共に、平成12年まで22年間務め、その間県連監事、理事、副理事長を28年間、体協理事、副理事長、副会長を26年間と現在も務め、平成14年に県体育功労者表彰されました。これもすでに亡くなられた河野謙三、磯村名男、藤本市郎、島海秀次、笠井栄の5人の歴代会長の下にご指導いただいたお陰と感謝しています。今後、先輩に教えられた様に、若手の力になるよう努力はしていきたい。

忘れられない事は、昭和49年～62年の13回、日本を代表する選手を選抜し、平塚インドア全日本選抜軟式大会を協会、湘南クラブ主催で見付台体育館において開催出来



た事が協会として一番まとまり充実していた時期であったと思います。この経験を生かして平成5年～10年の6回、神奈川県体の役員養成と競技力向上を目的としたジャパンカップ国際大会を平塚総合体育館で開催した事。藤本、鳥海、笠井栄会長が（故）柿沢市長に陳情して、昭和30年に松風コートが完成してから10年間管理人が配属される迄、協会事務局の笠井栄会長が市に代わってコート使用料を収納管理し市へ納め整備管理していた事。松風コートの廃止の際、代替コートの交渉を長老さん達がしてくれて、現在の田村コートがあり、過去の功績で協会主体の使用になった事である。そして、協会より河野謙三、磯村名男会長が県連会長に、藤本市郎、鳥海秀次、笠井栄会長が県連副会長に、笠井達夫副会長が県連理事長、副会長、関東連盟理事長、日本連盟専務理事、アジア国際連盟事務総長に就任し、県下に誇れる有数の協会になった。協会創設者と歴代会長の平田周三、斉藤栄一、中野喜三郎、杉山茂、河野謙三、磯村名男、藤本市郎、鳥海秀次、笠井栄氏、現在の会長である瀧波文夫氏のご苦勞とご功績を決して忘れてはならないことを記録に残しておきます。



## 平塚市ソフトテニス協会60周年によせて



平塚市ソフトテニス協会

副会長 土屋 眞 二

平塚庭球協会、平塚軟式庭球協会、平塚市ソフトテニス協会と時代にあわせ名称の変遷はありましたが、おかげさまで60年という人間に例えれば還暦にあたるおめでたい節目を迎えることができました。

これは、設立当時より御苦勞された協会役員、ならびに諸先輩の皆様のご尽力の賜であるとまず、感謝の意を表したいと思います。

思い起こせば、平塚のテニスコートと言えば昭和33年～昭和44年まであった松風コートでした。現在のソフトテニス愛好者のかなりの人の青春時代には、一度や二度はプレーされた事があると思います。その松風コートが最後になる昭和44年に県民総体において、平塚市が初優勝することができました。長年お世話になった松風コートに対し最後に少しでも恩返しができたのかと思ひ出されます。そして翌年、現在の田村コートが完成しました。記念事業として国体関東地区予選会を開催いたしました。県代表として平塚市から白井・脇田組（白陵クラブ）が出場し、見事本大会（岩手国体）に駒を進めました。さらに、この年には県民総体において平塚市が、昨年につき2連覇を果たす事ができました。田村コートが完成して最初の年に好成績が取められたことは、ついこの間のように思ひ出されます。田村コートをこれからも可愛がっていただき、楽しくプレーするコートであり続けるよう願っています。

今後、少子高齢化等によるスポーツ人口の減少の懸念はありますが、生涯スポーツとして高齢化にふさわしいスポーツはソフトテニス最適です。ソフトテニス愛好者が増え当協会、県連盟が益々発展するよう微力ながら協力していきたいと思ひます。

終わりに、本記念誌の発行にあたり60周年準備委員の皆様の大変なご協力に感謝いたします。